

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	商学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 商学演習(1年次必修科目)における共通講義内容（ベンチマーク）を作成し、教員に徹底する。	→商学演習の共通講義内容（ベンチマーク）の作成。毎年4月の教授会での配布と確認。	B	C	B		
2. 各学年の履修申請単位数上限を2～4単位程度引き下げ、一方でGPA上位の学生には単位数制限を緩和する。	→履修申請単位数。内規の改正。	A	A	A		
3. シラバス内容と整合する授業が実施されているかを確認する。	→シラバスの遵守について教授会での確認。	C	C	B		
4. 全科目のシラバスにおいて評価方法を明示する。	→ネットシラバスへの評価方法の記載率。	B	B	B		
5. 成績評価結果を教員へ公開する。	→事務室における成績評価結果の常時閲覧実施の有無。	A	A	A		
6. 単位認定の適切性を定期的に確認する。	→単位認定数。定期的な単位認定の見直し内容。	A	B	A		
7. FD委員会主催の授業改善のための研究会を継続し、FD委員会主催研究会への参加教員を増加させるとともに、教員からの提案・議論の活性化および授業改善取組事例の共有を進める。	→FD委員会主催の研究会の開催数。FD委員会主催の研究会への参加教員数。授業改善取組事例の報告数。	A	B	B		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	<p>大学1年生の高校4年生化、文章の読解・作成能力や理解力・表現力の低下への対応が喫緊の課題となっていることを受け、新入生のほぼ全員が受講する少人数科目「商学演習」で下記の内容を指導するよう、教員に周知・依頼している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検索方法、図書館の利用方法 2. 文章の読解・まとめ方 3. レポートの書き方（文献引用方法・著作権の問題・表記スタイルなど） 4. プレゼンテーションの方法（PCを利用するものに限定しない） 5. レポート作成やプレゼンテーションに用いるソフトウェアの活用 6. その他（インターネット利用上のエチケット、E-mailの書き方など） <p>商学演習は「教員の専門領域を基礎とする入門科目」であるという位置付けは変わっていないが、商学演習の指導内容が、その後の学習と研究活動に大きな影響を与えることを教員が再確認した。新人教員については、新人教員オリエンテーションにおいて、商学演習の目的やねらいについて特に説明をし、上記の内容を講義に含めるよう依頼している。</p>
目標2	<p>履修申請単位数上限について数年かけて引き下げた結果、各学年度において1学期間に履修できる単位数は、第1学年度22単位以内、第2学年度22単位以内、第3学年度24単位以内、第4学年度24単位以内となった（教職に関する科目等はこの限りではない）。また、GPA上位の学生への単位数制限の緩和については、前学期のGPAが3.0以上の学生については、次学期の履修制限単位数を緩和し、4単位増加することができることとなっている。</p>
目標3	<p>2012年4月からの新カリキュラムの開始に伴い、商学部教務において、全科目についてシラバスの内容（講義目的・到達目標、各回ごとの授業内容、授業方法等）を確認した。その上で内容が不十分なもの（例えば、各回ごとの授業内容に重複があるもの）については、記載内容の修正を担当教員に依頼し、修正されたシラバスが再提出された。シラバスと授業内容とのチェックについては、授業アンケートによって補っている。</p>
目標4	<p>2012年4月からの新カリキュラムの開始に伴い、商学部教務において、全科目についてネット・シラバスにおける成績評価方法・基準をチェックし、記載の有無や内容について確認した。</p>
目標5	<p>各科目の成績評価結果については、商学部事務室において常時閲覧できるようにしている。</p>
目標6	<p>2012年4月からの新カリキュラムの開始に伴い、商学部の各コースの教員および商学部教務で、全ての単位認定の妥当性について検討し、一部の単位認定の廃止、認定単位の限定、単位認定試験の更新等を含めた単位認定制度全体の見直しを行った。新しい単位認定制度は、2012年度入学生から適用されている。</p>
目標7	<p>将来構想委員会主催のFD研究会を定期的で開催した。またその内容は商学部教務により、FDニュースレターに掲載され、教員にさらなる周知徹底がなされた。なお、委員会主催の研究会により多くの教員が参加するよう、教授会において、FD委員会主催の研究会の開催を周知し、参加の呼びかけを行ったことにより、参加者の増加が実現した。また、2012年4月より学部各種委員にFD委員会を将来構想委員会より独立させた。</p>
備考	